

可動床の参考資料

1. 可動床導入の目的

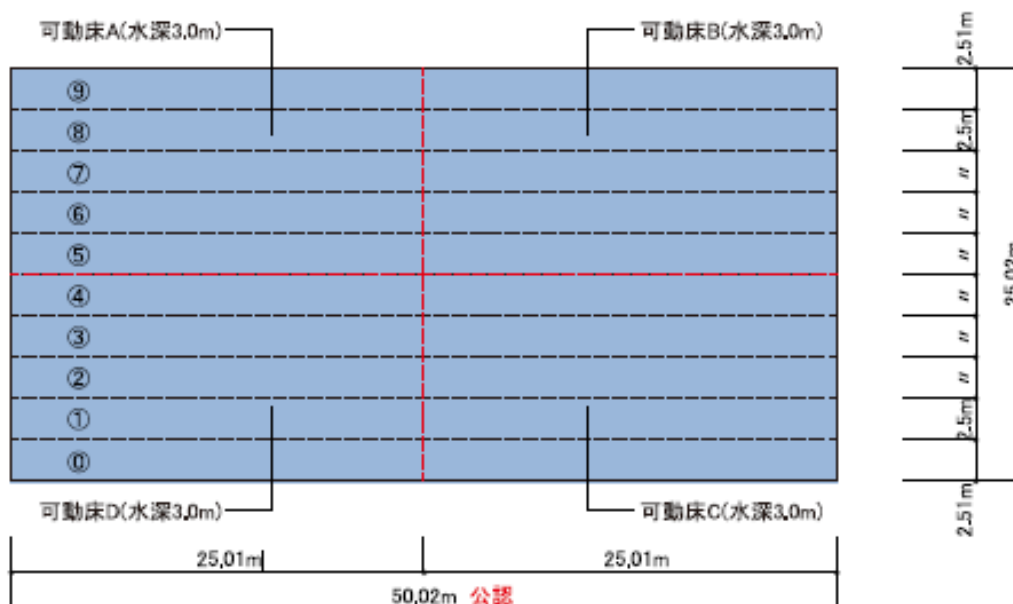
- ①競技性の高い 50mプールにおいて、水深の調整やプールの分割を行うことで、競技者による利用と、一般利用者による遊泳や健康増進目的での利用との両立を図る。
- ②プールとスケートリンクの転換作業に要する期間を短縮することにより、利用期間の拡大を図る。

2. 可動床の導入・運用例

「可動床導入の目的」を踏まえ、以下を一例として、運用方法を含めた提案を行うこと。

(可動床の導入例)

可動床の水深は 0m～3.0m（駆動部は含まない）を確保する。



(可動床の運用例)

【営業開始～7月（夏休み前）まで】

可動床A、B：水深 1.5m程度とし、長水路プール（5レーン）として、主に競技者のコース貸し、個人利用レーンとする

可動床C、D：水深 1.2m程度とし、長水路プール（5レーン）として、水中ウォーキング等にも利用できる個人利用レーンとする

【7月（夏休み中）～スケートリンクへの転換まで】

可動床A、B：水深 1.5m程度とし、長水路プール（5レーン）として、主に競技者のコース貸し、個人利用レーンとする

可動床C：水深 1.2m程度とし、遊泳用プールとする

可動床D：水深 0.8m程度とし、遊泳用プール（幼児向け）とする

可動床A・Dの間、可動床B・Cの間、可動床C・Dの間には着脱可能なフェンスを設置し、利用者の安全を確保する